

ロシアの機関車攻撃、ウクライナ軍の兵站をまひさせる恐れ

(Russia's Locomotive Strike Campaign Threatens To Cripple Ukraine's Military Logistics)

<https://korybko.substack.com/p/russias-locomotive-strike-campaign>

ロシアが今後の冬を通じて、ウクライナの機関車に加え、ガソリンスタンド、港湾、発電所などのインフラ施設を計画的に攻撃し続ければ、戦況が大きく変わる可能性がある。こうした攻撃によってロシア軍が前線を突破できれば、来春までにロシアの決定的な勝利で戦争が終わるかもしれない。

米政治専門メディア「ポリティコ」は9月中旬、「ロシアがウクライナの列車を狙っている」と題する記事を掲載した。

ロシアがウクライナ軍の兵站（物資や装備の輸送・補給）を支える鉄道を精密攻撃していることが、初めて世界的な注目を集めたのは、その1週間足らず前のことだった。ロシアがウクライナとポーランドの国境付近で、初めて機関車を攻撃したためだ。

その際、英国のボリス・ジョンソン元首相は攻撃の直前に現場を通過しており、デービッド・ペトレイアス元米中央情報局（CIA）長官は、まだ駅にいた。このため、西側メディアでは、要人の暗殺を狙った攻撃ではないかとの憶測が広がった。

ポリティコの記事に戻ろう。

同誌によると、「2022年にロシアによる全面侵攻が始まって以来、ロシア軍の攻撃

で 500 両以上の機関車が損傷または破壊された。そのうち 60%以上が過去 8 カ月間に攻撃を受けている。現在、ウクライナ鉄道は毎月 37～40 両の機関車を失っている」という。

また、ウクライナ国営鉄道会社の会長は同誌に対し、「破壊のペースがあまりにも速く、修理に必要な資金が足りない」と語った。

ポリティコが伝えたもう一つの重要な点は、ウクライナの鉄道が欧州の大部分とは異なる規格を採用していることだ。

同誌は次のように説明している。

「ウクライナ国営鉄道は、欧州の大部分で使われている 1435 ミリではなく、1520 ミリの軌間（左右のレールの間隔）を採用している。このため、支援国がすぐに提供できる鉄道車両は限られる。同じような規格の車両を使っているのは、バルト諸国とフィンランドだけだ。リトアニアは冬季支援の一環として、ウクライナに機関車を送ることを約束している」

こうした事情から、ウクライナが調達できる代替の機関車や交換部品の数、大きく制限されている。

ロシアがウクライナとポーランドの国境付近で初めて機関車を攻撃した際、本サイトでは次のように分析した。

「ロシアは今や、ウクライナ国内のどこでも、好きな時に精密攻撃を行うことができる。ロシアに十分な弾薬がある限り、こうした攻撃を無期限に続けることも可能

だ。(中略) 来月にも再開が見込まれる米国を交えた3カ国協議までに、ウクライナに一方的な大幅譲歩を迫ることができるかもしれない。プーチン大統領が攻撃を強めているのは、ゼレンスキー大統領が警告しているロシアの領空閉鎖に先手を打つ狙いもあるのかもしれない」

今夏、米国と、興味深いことにフランスも支援して、ウクライナはロシアに対する新たな「消耗戦」を展開した。

これは、ゼレンスキー大統領が40日間にわたって実施した、プーチン大統領に停戦を迫るための働きかけの一環だった。しかし、この試みは結局失敗に終わった。

それどころか、プーチン大統領が対抗措置として、限定的ながら攻撃を強める「緊張を高めることで緊張緩和を図る」戦略に出たため、ウクライナ側の作戦は大きな逆効果を招いた。

ロシアによる対抗措置は、その後、ガソリンスタンドや港湾、そして最近では機関車を狙った精密攻撃という形で現れている。

こうした攻撃によって、ウクライナ軍の兵站がまひし、北大西洋条約機構(NATO)から前線に送られる装備の流れが断たれる恐れがある。

つまり、プーチン大統領はゼレンスキー大統領の戦略を逆手に取り、ウクライナ側の「消耗戦」に対して、自らも「消耗戦」を仕掛けたことになる。

欧州で最近、戦争への危機感が過度に高まっているのも、ロシアが冬の終わりまでにウクライナに戦況を一変させるほどの打撃を与える可能性に、欧州の指導者たち

が気づいたためだろう。

このため、欧州の NATO 加盟国は難しい選択を迫られている。

一つは、ウクライナ上空でロシアのミサイルなどを迎撃したり、限定的な数の部隊をウクライナに派遣したりして、軍事的な関与をさらに強めることだ。ただし、その場合は第三次世界大戦につながる危険がある。

もう一つは、ウクライナが短期間で敗北する可能性を受け入れることだ。

したがって、ロシアが今後の冬を通じてウクライナの機関車を計画的に攻撃し、同時にガソリンスタンド、港湾、発電所などのインフラ施設にも同様の攻撃を続ければ、戦争の展開が根本から変わる可能性があると予測しても、決して大げさではない。

欧州の NATO 加盟国は、戦争がいつまでも続く事態に備えている。しかし、実際にはそうならないかもしれない。

ロシアの精密攻撃によって前線で突破口が開かれれば、来春までにロシアの決定的な勝利で戦争が終わる可能性もある。